

と出会えるチャンス。選考につながる懸念も生じています。

「大学卒業後3年以内に3割離職」が10年以上続いていきます。自分の興味、関心、適性と仕事内容を把握できないまま、何となく会社を選択し、内定をもらっても「これでよかったのか」と悩む学生もいます。就職活動時に自己分析や企業研究が十分出来ないミスマッチが起こりやすいと考えられます。キャリアセンターの相談では働くことをどう思うか、働く上で大事にしたいこと、企業の選択の軸、仕事の興味、發揮できる力などを考えて、自分が納得する選択をできるような支援をしています。相談業務は予約制、空きがあれば当日も受け付けます。一日6名、相談時間は40分〜50分です。活動のピーク時は相談員も増えてキャリアセンター総動員の体制になります。

相談内容は、履歴書・エントリーシートなどの書類作成・添削、筆記試験、適性検査、グループディスカッション、グループワークの対策、プレゼンテーション作成、面接対策は私が面接官役になりビデオ撮影をしています。内定まで複数回の選考があり状況に応じた相談と指導が求められます。

求人情報は就職情報ナビ、キャリアセンター、ハローワーク、企業のホームページなど様々なツールで探します。学生たちのコミュニケーションはSNS、主にLINEです。企業との連絡ツールでパソコンのE-mail、電話、手紙に苦戦しています。スマホで人間関

係を作っている世代、大人との会話も苦手意識を持っています。ですから相談に来るのは、不安で勇気がいること。相談室のドアをそつとのぞき込む姿も見られます。

「何を言われるのだろうか」「ドキドキした緊張感が伝わってきます。私心がけていることは「よく来てくれましたね」という気持ちで挨拶をし、名前を名乗り、笑顔で迎えています。一瞬のアイコンタクトですが、学生との距離感が近くなるよう、最初の出会いを大切にしています。安心していられる、自由に話せるような場を作ることです。上から目線にならないよう、学生の話に耳を傾けていくと「実は…」と困っていることの本題が話されます。勉強、友人、サークル、アルバイト、家族、人づきあいの苦しさ、進路の悩み、性格、恋愛など彼らの生活で何が起きているのか、将来の不安はどこにあるのか、学生がどのような人生を歩いてきたのか、将来をどう描いているのか、学生と一緒に考えます。

### 就活を自分が成長する場に

相談では私自身の課題である問題解決に先走らないよう、実技指導者の先生方からの助言を肝に銘じて「傾聴」を大切にしています。ラポールができる適切な支援につながります。その際気をつけている点は、情報の押しつけをしないことです。何に困っているのか、何を知りたいのか、自分で何を調べたのか、など目的を教えてください。自分で問題解決できるよ

うになることは主体性を伸ばすチャンスです。周囲と比べて自信をなくす、親からのプレッシャー、自分の意見をどう伝えたら相手に理解してもらえるか、就職活動で出会ういろいろな壁を乗り越えて、成長できる場にしてもらいたいと願っています。

大学教育もダイバーシティの視点に立つて施策する時代になりました。今後の目標は多様な個性、特性を持った学生のキャリア形成です。大学内の関係部局と連携して学びやすい環境と自立支援の体制作りです。職場の職員の方との情報共有、相談し合える関係構築も大切です。今まで以上にコミュニケーションを密にしたいです。

先日、ダイバーシティの取組みをしている企業を訪問、職場見学をさせて頂きました。一人ひとりの適性、能力を活かしてコツコツと作業に取り組む姿、笑顔で接客をしている姿が心に残りました。発達の特徴を理解し、得意なことを活かして仕事に就けるような支援作りです。

20年間続けてきた学生の就労相談、60歳を超えて片道約2時間の通勤です。体力作り、メンタルの安定、自分のコントロールに気をつけて、学生の応援団の一人として見守っていきたいと思います。私が大切にしている中学時代の恩師から卒業式にももらったメッセージ「Where there is a will, there is a way」意志のあるところに道は開ける、自分の意志に素直に、人との出会いに感謝して歩いていきたい。